

## 人の話が聞ける子とは

高橋 健雄

### 関心をもってもらいたい子どもたち

歴史の授業時に復習をかねて元号や西暦について話をする事があります。その時、脱線をして年の換算計算をします。いろいろな例をあげ元号と西暦の換算（昭和の数に25を足すと西暦の下2桁）をすると関心を持った子は最後の方になると「すごいね、先生が発明したの。じゃあ明治は？平成は？どうするの」。数年前までは、こんなふうに言われたものです。実際バイト先や親に教えて感謝されたという子もいました。

ところが、近年はほとんど興味を示しません。突然「先生、カレー南蛮の南蛮ってどういう意味」。(^^;) 雑誌を見ている子は「山下公園の引き込み線って何？先生！」。授業とは脈絡もない質問が急に来ます。それにいくらかでも応えないと彼らはいたって不機嫌になります。

A子は一生懸命手鏡とご対面。いつもの口紅？「何してるの？」「ノート取ってる？」。側に行ってみると「先生、毛を抜いているの。今終わるからさあ」と眉毛のお手入れ、後ろのB子は下を向いてゲーム機で遊んでいます。

黒板の前で大声で怒鳴っても逆効果。その都度、今は授業だから聞いてほしいなと机の前に行き話をするのです。目の前で注意するのはうざったいと思われるかなと最初は心配でした。ところがよ

く注意される子の隣にいる子が「先生どうして俺には声かけてくれないの」と逆に言われてしまうことがあるのです。授業中、わざわざゴミ箱にゴミを捨てに立ち歩く子もいます。注意ではなく「君、今日は元気そうだね」と声かけすると機嫌良くなって授業に入っていきます。

子ども達はいろんな形で声をかけてもらいたいのです。授業よりも、自分のことや関心を持っていることに乗ってほしいのです。相手にしないと次からこちらのことを聞いてもらえません。思春期の子ども達とのつきあい方は、まずこちらが相手に耳を傾けることです。

授業に興味を持ち水滸伝などの古典や私の知らない海外作家の本を愛読する読書家もいますが、子ども達は年々学ぶ喜びから遠ざかっているように感じます。

### 口うるさい親

授業が理解できないから私語が増えると言われることがあります。が、必ずしもそうではありません。簡単な内容でも興味のある内容でも、おしゃべりしながら授業を受ける感覚になっているのです。A子に「（君は）おしゃべりだからお母さんとよく話す？お母さんは話を聞いてくれる？」と聞くと、「全然。口うるさいだけ」と言います。

親子の会話では、学校の様子など親が知りたい情報を得るための会話だったり、子どもの話を最後まで聞かず途中でアドバイスをしたり考えを押しつけたりします。時には話をはぐらかされたり、点

数でバカにされたり相手にされなかったりという経験を積み重ねてきています。場合によっては携帯や家事をしながらの会話で子どもに向き合っていないのです。

小さいときから自分の話を真剣に聞いてもらえなかった子は、人の話に関心を持つことはできません。気持ちを受け止められていないため聞くことの意味を実感することができず自尊心が傷ついているのです。私のことを尊重されること、受け止めてもらうこと。そのような体験の積み重ねで、人の話を聞くことや授業に集中できるようになっていくのです。学習で学ぶ喜びを得る前に、私のことを聞いてもらう喜びを感じるのが先なのだと感じています。

母親は子どもの話を「うん、そう、そう。そうだね」と聞いてみましょう。屁理屈、お金のかかること、理不尽なことも多いでしょう。それでも意見を控え、ひとまず聞き役に徹してみましょう。すると子どもはとても生き生きとしてきます。ただし根掘り葉掘り問いただすのは厳禁です。

母親がいつも聞き役ではストレスがたまります。その時の出番が父親です。「それでどうした？ そうなんだ」と父親は母親の話や気持ちを十分に受けとめてもらいたいものです。

-----  
昭和は25と覚えます。西暦（下二桁）と換算します。

昭和20年  $20 + 25 = 45$  → 1945年 1970年は  $70 - 25 =$  昭和45年  
明治は67、大正は11で。

大正8 + 11 = 1919年  $1889 - 67 =$  明治22年 [  $22 + 67 = 1889$  ]

平成は88 平成はやや面倒です。